



## スマホを活用した地域のつながりと支援システムの検討

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

小川 孔美 准教授

【研究分野】 高齢者福祉、高齢者虐待防止、専門職連携教育&専門職連携実践  
 【キーワード】 地域包括ケアシステム、サロン、世代間交流、デジタルデバイドの縮小、ボランティア  
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=2020ga>



### 研究概要

デジタル化が進展し、日常生活において欠かせない存在となっています。

わが国では「**高齢化**」と「**デジタル化**」が同時に進行しており、総務省の通信利用動向調査によるとスマホの普及は8割以上（86.8%）の世帯で保有しています<sup>1)</sup>。その一方で、「端末の操作が難しい」、「近くに相談できる人がいない」といった理由で、**デジタル活用を躊躇する人たちが高齢者を中心に存在**することが明らかとなっています。

新型コロナウイルス感染症により、地域における高齢者らの集いの場となっていたサロン等が休止、減少により「**社会的孤立者**」の割合は、コロナ流行前に比べ増えており、また、男性・高齢であるほど社会的孤立に陥りやすくなっています。

本研究及び活動では、**スマホを日常的に使い、操作方法やその利点を知る学生らがその強みを活かし、地域のなかでつながりを持ちにくい状態にある高齢者とともにスマホの使い方を学ぶ機会や交流をとおして、一人ひとりのニーズに合った支援のあり方、及び生活課題解決のためのシステム開発**に関する事業研究を行っています。

1) 総務省（2021）「令和2年通信利用動向調査の結果」  
 ([https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/data/210618\\_1.pdf](https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/data/210618_1.pdf), 2021.10.1)

### 研究紹介

社会福祉協議会〔生活支援体制整備事業〕における協議体（地域支え合い会議）、自治会、地区サロン、地域包括支援センター等との連携による事業研究。

- 1) サロン、居場所づくりの実施、課題解決支援
- 2) 地域支え合い推進員等との連携による協議体運営企画・実施支援
- 3) 介護予防活動支援事業、勉強会、サポーター養成
- 4) 質的研究、インタビュー調査等



### 講座テーマ紹介

- ・地域包括ケアシステムにおける高齢者の見守り支援について  
～外出自粛による孤立の防止に向けて～
- ・コロナ禍における安全な通いの場（居場所づくり）の開催
- ・居場所（サロン）に行くと私の何が変わるのか（通っている方へのインタビュー結果から）
- ・サロン運営におけるボランティアが抱える課題と支援
- ・超高齢社会におけるデジタルデバイドと社会的孤立

### アピールポイントなど

自治体における「地域包括ケア推進代表者会議 顧問」「地域包括支援センター運営協議会委員」として参加しております。自治体だけでなく民間企業、NPO等との連携も大切にしており、政策や課題解決に関する共同研究のお誘いをお待ちしております。